

令和7年
2025年

11月14日
金曜日

第11834号

食肉速報

— THE DAILY MEAT NEWS —

昭和51年5月19日
第三種郵便物認可

購読料 (前納)
年間 82,080円
(税込み)
6か月 42,120円
(税込み)

本紙は関連企業・団体との
タイアップ企画記事を含みます

【発行所】株式会社食肉通信社
<https://www.shokuniku.co.jp/>

東京支社
〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10
TEL03-6206-0929 FAX03-6206-0928

大阪本社
〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48
TEL06-6538-5505 FAX06-6538-5510

九州支局
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12
TEL092-271-7816 FAX092-291-2995



京都市食肉青年会が市内施設に牛肉贈呈……P8

CONTENTS

- ▶ 生活衛生関係営業の景気動向等調査、持ち直しの動きに足踏みみられる……P2
- ▶ スターゼン決算は売上高2200億8100万円で前年同期比3・1%増……P2～3
- ▶ オヤマの新社長に小山雅也氏が就任……P3
- ▶ ハンガリーで鳥フル、家禽肉等輸入一時停止…P3
- ▶ 丸大食品が2026年3月期第2四半期決算会見②……P4
- ▶ 全肉連が加工研修会の参加者募集中、来年1月に静岡で開催予定……P4～5
- ▶ JCHAが第11回「生ハムの日2025」を開催、今年は17人のエキスパートが誕生……P5
- ▶ 福留ハムの2026年第2四半期連結業績……P6
- ▶ 「ハンバーガー店」倒産状況、2極化で小規模店舗が苦境に—TSR……P6
- ▶ スターゼンが「中期経営計画2030」策定、グローバル市場への挑戦図る……P7
- ▶ スターゼンが株主優待制度拡充、銘柄豚と加工品詰め合わせを追加……P7
- ▶ 京都市食肉青年会が市内施設に牛肉贈呈、市長からは感謝状を授与……P8
- ▶ モリタ屋(京都市)が「京都肉牛プレゼンテーション」を開催……P8
- ▶ [輸入牛現物相場] 末端の販売はいまだ振るわず……P9
- ▶ [ブロイラー市中現物相場] 需要期だが輸入量少なく、ブラジル産、タイ産とも一段高……P9
- ▶ [東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数] 13日……P10
- ▶ [各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場] 13日…P11

注目のヘッドライン

生活衛生関係営業の景気動向等調査、持ち直しの動きに足踏みみられる

日本政策金融公庫はこのほど、生活衛生関係営業の景気動向等調査結果(2025年7～9月期)を発表した。

…詳細はP2

スターゼン決算は売上高 2200 億 8100 万円で前年同期比 3・1%増

…詳細はP2～3

りんご和牛
信州牛
登録商標 第1394040号

信州プレミアム牛肉
登録商標 第5282895号 第5282894号

信州牛生産販売協議会

国産牛豚内臓肉、チルドビーフ、チルドポーク卸売

健康と食生活を演出する
ビセラル株式会社

〒123-0865 東京都足立区新田 2-8-12
営業一課 / ☎(03) 3919-2929 FAX(03) 3919-2930
総務 / ☎(03) 3919-2980 FAX(03) 3919-2941

<http://www.visceral.co.jp>

生活衛生関係営業の景気動向等調査、持ち直しの動きに足踏みみられる

日本政策金融公庫はこのほど、生活衛生関係営業の景気動向等調査結果(2025年7~9月期)を発表した。この調査は、生活衛生関係営業企業を対象に訪問調査を行い、3152企業から回答を得たもの(うち食肉・食鳥肉販売業155企業)

それによると、業況判断DIは、全業種計では前期から3.3ポイント低下して今期(25年7~9月)はマイナス11.3となった。来期(10~12月)は3.4ポイント上昇し、マイナス7.9となる見通し。このうち食肉・食鳥肉販売業は前期から9.3ポイント低下してマイナス30.3となり、来期はマイナス15.5となる見通し。

売り上げDIは、前期から0.1ポイント低下してマイナス4.6となった。来期は2.2ポイント上昇し、マイナス2.4となる見通し。食肉・食鳥肉販売業は前期から7.9ポイント低下してマイナス21.9となり、来期はマイナス3.9となる見通し。採算DIは、前期から1.0ポイント低下しマイナス2.5となった。食肉・食鳥肉販売業は前期から14ポイント低下してマイナス3.2となった。利用客数DIは、前期から2.8ポイント上昇してマイナス16.3となった。食肉・食鳥肉販売業は前期から9.2ポイント低下してマイナス24.5となった。客単価DIは、前期から1.4ポイント低下して8.9となった。食肉・食鳥肉販売業は5.3ポイント低下してマイナス12.9となった。

設備投資の動向をみると、今期に設備投資を行った企業の割合は、全業種計で、前期から0.9ポイント上昇し、18.8%となった。食肉・食鳥肉販売業は0.2ポイント上昇し34.2%。今期の設備投資の内容は、全業種計で「機器・機械(空調設備、照明設備、情報化設備を除く)」が41.1%と最も多く、次いで、「空

調設備」(29.4%)、「店舗・事務所の修繕」(27.7%)の順となった。また、設備投資金額は500万円未満が全体の8割超を占めた。来期の設備投資計画については、「実施予定あり」が12.9%となった。

経営上の問題点は、「仕入価格・人件費等の上昇を価格に転嫁困難」(54.4%)が最も多く、次いで、「顧客数の減少」(38.8%)、「店舗施設の狭隘・老朽化」(22.1%)の順となった。食肉・食鳥肉販売業でもほぼ同じだが、「仕入価格・人件費等の上昇を価格に転嫁困難」(66.5%)が最も多く、次いで、「従業員の確保難」(22.0%)、「客単価の低下」(19.4%)が、全業種に比べ高かった。業況判断理由について、食肉関係では今期は「近隣にマンションが増え、若年層の来客数が増加した。一方で、高齢の常連客が減少したため、総合的には不変(神奈川県)」「物価高騰の影響で、高価格帯の商品の動きが鈍化した(山梨県)」など。来期は「来期は暑さも落ち着き、主力商品の動きが良くなることを期待したい(山口県)」「豚肉の仕入価格が大幅に上がり、売り上げの増加分でカバーし切れなくなっている(埼玉県)」などの声が上がった。

食鳥肉関係では、今期について「値上げを行い、売り上げはわずかに前年同期を上回っているが、人件費や諸経費の上昇が利益を圧迫している(大阪府)」「仕入価格が著しく上昇し、価格転嫁が困難である(香川県)」など。来期は「来期は涼しくなるので、鍋料理など鳥肉の需要が増えるだろう(京都府)」「猛暑の影響で鶏肉の仕入価格が上昇した。消費者の節約志向もあり、業況の回復は見込めない(東京都)」などの意見がみられた。

スターゼン決算は売上高 2200 億 8100 万円で前年同期比 3・1%増

スターゼンが13日に発表した2026年3月期第2四半期連結業績は、売上高2200億8100万円(前年同期比3.1%増)、営業利益28億8400万円(10.8%減)、経常利益39億8800万円(8.8%増)、親会社株主に帰属する中間純利益27億9100万円(11.6%増)となった。

同社グループは「収益構造の再構築とサステナブルな事業運営」をテーマに据えた中期経営計画の最終年度を迎え、計画達成に向けた施策に取り組んできた。中期経営計画では「海外事業の強化」を掲げ、その一環として今年4月、豪州Wagyuの肥育企業であるYORKRANGE社の全株式を取得。豪

州Wagyuの生産に直接関与しつつ、中国や東南アジアを中心とした第三国への販売までトータルに手掛けることでサプライチェーンの強化に取り組んでいく。また近年、拡大する海外での和牛マーケットに向けて、同社ではこれまでも九州の阿久根を拠点とした輸出専用ブランド「AKUNEGOLD」を中心に輸出を推進してきたが、より安定した供給体制を構築するため、東北エリアを拠点とした新たなブランド「AOMORIGOLD」を立ち上げた。同社の輸出ブランドは、味や見た目の品質だけでなく、同じ価値観を共有する生産者との連携、徹底した衛生管理体制、牛部分肉製造マイスターによる高度な加工技術、そしてこれまで培ってきた営業ノウハウといった、それぞれの“匠の技”によって支えられている。これらが一体となることで、サプライチェーン全体として他に類をみない独自の強みを発揮できるのが同社ブランドの特長だ。今後は「AKUNEGOLD」と「AOMORIGOLD」の2ブランド体制で、「刺激的な体験で食を楽しく人生を豊かにする情報をグローバルに発信する和牛」という価値を世界中に届ける。

サステナブルな事業運営の一環としては今年6月、アニマルウエルフェアポリシーを策定・公表。また、8月には業界初となる水素トラックを導入するなど、温室効果ガス(GHG)削減に取り組んでいる。今後も環境に配慮し、社会に貢献できる取り組みを続けていく。なお、スターゼングループは「食の感動体験を創造することで世界中の人々と食をつなぎ続ける」という経営理念の下、食の持つさまざまなチカラを通じて、感動を届け、世の中を元気に、笑顔にしていこうことを目指している。この経営理念をより多くの株主に共

感してもらうために株主優待制度の内容を拡充。引き続き経営理念の実現と持続的な企業価値向上に取り組んでいく。

【食肉】国内事業は、長引く物価高による消費者マインドの低下から、比較的安価な食肉へ需要のシフトがみられ、国産牛肉の販売に苦戦。一方、輸入食肉は現地高や円安により価格が上昇したものの、おおむね適正価格で販売を行い利益確保につながった。また、和牛の輸出や市場ニーズに応じた商品ミックスに取り組んだことに加え、国産豚肉の販売が堅調に推移したことから、売上高・売上総利益共に前年同期を上回った。カテゴリ別にみると、国産食肉においては、国産牛肉の販売に苦戦したが、国産豚肉の販売を強化したことで、売上高・売上総利益は共に前年同期を上回った。輸入食肉においては、価格転嫁に加え、在庫の管理を徹底し余剰在庫の発生を抑えられたことから、売上高・売上総利益共に前年同期を上回った。輸出事業においては、台湾の展示会「FoodTaipei」において同社の輸出専用ブランド「AKUNEGOLD」「AOMORIGOLD」の展示などの販売促進活動、既存・新規取引先への積極的な営業活動に取り組んだ結果、好調に推移した。

【加工食品】加工食品においては、ハンバーグ商品群が堅調に推移したため、売上高・売上総利益は前年同期を上回った。

【ハム・ソーセージ】ハム・ソーセージにおいては、原材料価格のコスト上昇を踏まえ、価格改定や商品の統廃合、工場オペレーションの改善、新商品の開発に努めたものの、売上高・売上総利益は前年同期を下回った。

オヤマの新社長に小山雅也氏が就任

(株)オヤマはこのほど社長交代の人事を発表した。小山征男代表取締役社長が退任し、取締役会長に

就任。後任として新たに小山雅也氏が代表取締役社長に就任した。

ハンガリーで鳥フル、家禽肉等輸入一時停止

農水省動物検疫所は12日、ハンガリーのチョングラード・チャナード県にある家禽飼養施設で高病原性鳥インフルエンザの発生が確認されたことから、同

地域から輸出される生きた家禽、家禽肉等について、輸入を一時停止したと発表した。

丸大食品が2026年3月期第2四半期決算会見②

(丸大食品が10日に行った2026年3月期第2四半期決算会見での、森本芳史取締役経理部長による業績説明概要の続き)

損益計算書の補足説明をすると、グループ売上総利益は201億円(前年同期比7・4%増)となった。原材料価格の高騰という逆風はあったが、加工食品の価格改定効果の浸透、食肉の採算管理の徹底、全社的なコスト削減に継続的に取り組んだことにより、売上高比率を前年同期と比較して0・9ポイント改善している。販管費については人件費が人員構成の変化などで減少していること等から、158億9千万円(0・4%増)と売上高の伸びと比較して抑制することができた。売上高比率も13・2%(0・1ポイント減)となっている。

通期連結業績予想は、5月14日に公表したものを本日修正している。具体的には売上高2380億円(期初計画比20億円減、前期比1・3%増)、営業利益70億円(10億円増、28%増)、経常利益74億円(10億円増、22・2%増)、親会社株主に帰属する当期純利益55億円(7億円増、0・2%増)としている。前期比増収で、営業利益と経常利益については増益、親会社株主に帰属する当期純利益についても、前期の特別利益の反動減を払拭する形で前期並み利益を確保する計画となっている。原材料価格の高騰は続き、引き続き人件費、物流費などのコスト上昇も継続する中、生活必需品を中心とした物価上昇により、市場の消費動向そのものが懸念される等、厳しい事業環境が続く見通しだ。

売上高については食肉事業の相場高の影響などか

ら米国産牛肉の販売を中心に想定より下回って推移する見通しで当初予想から引き下げているが、利益については上期が当初予想を上回って推移していること等から営業利益、経常利益については従来比10億円増、親会社株主に帰属する当期純利益については7億円増の上方修正をしている。1株当たりの配当金についても65円とし、期初計画比10円増、前期比15円増となっている。

セグメント別の通期計画で、加工食品事業はハム・ソーセージ部門において収益の改善、調理加工食品では売り上げの拡大、それぞれ中計のテーマに沿った取り組みを継続していく。ハム・ソーセージ部門のトピックとして、この冬のミラノ・コルティナ冬季五輪開催に合わせたチームジャパンのオフィシャルサポーターとして商品・販促を展開していく。

下期の事業売上高は795億9500万円(前年同期比1・6%増)、セグメント利益は24億6100万円(8・7%増)を見込み、通期の事業売上高は1612億円(期初計画比7億円増、前年比2・2%増)、セグメント利益は62億8千万円(11億8千万円増、27・0%増)を見込んでいる。

食肉事業では引き続きブランド食肉の販売拡大などにより事業領域の拡大に努めていく。これにより下期は売上高380億4600万円(0・1%増)、セグメント利益3億700万円(前年並み)と共に前年並みを見込み、通期では売上高766億7千万円(26億8千万円減、0・7%減)、セグメント利益6億9千万円(39・3%増)を見込んでいる。(連載終わり)

全肉連が加工研修会の参加者募集中、来年1月に静岡で開催予定

全国食肉事業協同組合連合会(村上幸春会長)は令和8年1月26~27日の2日間、令和7年度食肉流通機能強化事業の一環として、「食肉加工製造技術研修会」を静岡県富士市のグロースヴァルトSANOで開催する。現在、参加者を募集している。

この研修会は、食肉の低需要部位の有効活用により、高付加価値製品の開発、販売品目の多様化を通

じて、食肉小売店の経営強化を図るもの。県肉連の組合員は参加費用無料で誰でも参加することができる。

研修会は、本場ドイツの加工品コンテストで多数の賞を受賞した講師陣によって行われ、基礎アイテム「ブラートヴルスト(生ソーセージ)」の製造やソーセージの充填、ひねりなどを体験できる。また、「アウ

フシュニット(太いソーセージ)や「フライシュケーゼ(型入れして焼いたソーセージ)」「ウインナーソーセージ」のほか、野菜由来の発色剤を使ったソーセージの製造実演なども実施する予定だ。概要は次の通り。

開催日時=令和8年1月26~27日(2日間)▷開催場所=グロースヴァルトSANO(静岡県富士市)▷参加対象=道府県肉連組合員▷申込受付=所属する道府県肉連事務局▷募集人数=20人▷募集締切

=令和7年12月19日(募集締切前であっても定員に達し次第終了とする)▷問い合わせ先=全国食肉事業協同組合連合会(電話=03<3582>1241)



JCHAが第11回「生ハムの日2025」を開催 今年は17人のエキスパートが誕生

一般社団法人日本生ハム協会(JCHA)は11日、東京都内のレストランで第11回「生ハムの日2025」を開催。関係者をはじめ、駐日スペイン大使館関係者、外食事業者、メディアら多数が参加した。イベントでは生ハムエキスパート資格認定試験合格者の認定証授与式が行われた。エキスパート資格者は、生ハムの製法の違いを説明できる知識とカットングの専門的技術を必要とし、今年は17人の合格者が生まれた。

冒頭、JCHAの渡邊直人代表理事(中央写真)は「生ハムの原料である豚は、食べるために作られ、人類にとって非常に重要な動物性タンパク質だ。今日おいしい生ハムを思う存分楽しんでいただきたい」と呼びかけた。続いて、同協会の服部津貴子最高顧問は、「生ハムの日も今年で11回目を迎えるが、日本でこれほど多くの人に生ハムが愛されていることを大変喜ばしく思う。今後も生ハムのおいしさを極めるように、カットング方法を覚えていただきたい」とあいさつを行った。

来賓を代表し、駐日スペイン大使館経済商務参事官のゴンサロ・ラモス氏(下写真)は「スペインは、EUでは1位、世界では3位の豚肉生産国である。特に生ハムはスペインを代表する食品の一つで、日本でも多くのブランドが輸入されている。これも、本日この会場にいる協会の皆さま、生産者、インポーター、そして生ハムを愛する消費者のおかげであり、感謝申し上げます。今夜は皆さまと生ハムを楽しみたい」と述べた。

生ハムエキスパート資格認定試験合格者の認定

証授与式が行われた後、渡邊会長が活動状況を報告。生ハムの



世界組織インターハムから、同協会の横川咲エキスパートが「Interham Talento Joven(才能ある若者賞)」に選出されたことが発表された。

乾杯の音頭を花田利喜専務理事が取ったあと、会場では、エキスパートによりカットングされたスペイン産の「イベリコハム」「ハモン・セラノ」、国産の長期熟成生ハム「はもんみなかみ」、また「ベルギー産プロシュート」の他、ワイン、シェリー酒などが振る舞われた。

イベント中、時間内にカットング技術を競い合う「カットングコンテスト」、生ハムやワインなどの豪華景品が当たるじゃんけん大会などが催され、会場は大いに盛り上がった。



福留ハムの2026年第2四半期連結業績

福留ハムは13日、2026年第2四半期連結業績を発表した。それによると、売上高は117億8600万円(前年同期比4・3%減)、営業損失4億400万円、経常損失3億9700万円、親会社株主に帰属する中間純損失2億2100万円となった。

セグメント別の概況は次の通り。

【加工食品事業】 加工食品事業については、引き続き原材料価格ならびに物流コスト・労働コストなどは上昇したが、国内景気ならびに人流・インバウンド消費が回復する中、新商品「MIRAI(無塩漬商品)」の拡販、ハム・ソーセージ商品の営業を強化した結果、売上高は前年同期を上回った。また、利益についても、高付加価値商品である新商品「MIRAI」が健康志向の消費者に受け入れられ大きく伸びたこと、ならびに原価低減・生産性向上に努めた結

果、前年同期を上回った。その結果、売上高は51億7700万円(3・2%増)、セグメント利益(営業利益)は700万円(42・9%増)となった。

【食肉事業】 食肉事業については、消費者の低価格志向・節約志向が高まる中、輸入肉の高値が継続したこと、かつ国内豚肉相場が不安定に推移したこと、また国内牛肉の生産量が減少し商品仕入れが不安定に推移したこと、売上高は前年同期を下回った。また、利益についても、主力商品の食肉仕入コスト上昇を納品価格に適正に転嫁する努力が続けたが、販売重量および販売額の大幅な減少を補うことはできず、前年同期を下回った。その結果、売上高は66億900万円(9・4%減)、セグメント損失(営業損失)は1億500万円(前中間連結会計期間はセグメント損失6500万円)となった。

「ハンバーガー店」倒産状況、2極化で小規模店舗が苦境に— TSR

東京商工リサーチは9日、2025年「ハンバーガー店」倒産状況(1~10月)を発表した。それによると10月までに倒産したハンバーガー店(負債1千万円以上)は8件で、09年に統計を始めて以来、これまで最多だった14年の年間6件をすでに上回った。倒産した8件のうち、7件が販売不振で、6件が従業員5人未満の小規模店だった。また、本社所在地は東京都が4件、大阪府が2件と都市部に集中している。8件すべてが消滅型の破産で再建を諦めているのも特長である。

ハンバーガーは2千円超えも誕生している一方、大手チェーンは、手頃で季節感のある商品を相次いで展開し、二極化が進行している。そのほぎまで小規模店は苦境に陥っている。10年頃まで100円のワンコインで食べられるハンバーガーもあった。その後、シンプルで値頃感のあるハンバーガーと、ブランド牛やこ

だわりの野菜、チーズなどの具材を乗せた高級ハンバーガーも登場。二極化が一気に加速した。また、人件費や食材の価格高騰で製造コストも高まり、販売価格の上昇が始まった。ブランド力や商品力の高い人気店は、値上げでも集客が落ち込んでいない。一方、徹底したコスト管理と大量製造の強みを生かす大手チェーン店も価格競争力を生かしている。この両者の間で、これまで地道に独自の地盤を築いてきた小規模ハンバーガー店の息切れ倒産が目立つ。

デフレ時代の象徴だったハンバーガーだが、2千円を超える高級店の出現で急速にインフレ化も進んでいる。実質賃金が9カ月連続でマイナスの時代、消費者の財布のひもは固く、一部商品を値下げした牛丼チェーンなどとも競合する。価格上昇を避けられない中、中小・零細規模のハンバーガー店の苦難は当然続きそうだ。

【訂正】本紙11日付「「国際畜産総合展2027 from IPPS」を愛知県国際展示場で開催—中央畜産会」の記事中、早割特典の対象について、「中央

畜産会中央会員、地方会員、賛助会員を除く」としていましたが、「各会員も特典の対象に含まれる」の誤りでした。おわびして訂正します。

スターゼンが「中期経営計画 2030」策定、グローバル市場への挑戦図る

スターゼンは13日、10年後に向けた「長期ビジョン」に沿い、2026年度から2030年度までの5カ年を対象期間とする「中期経営計画2030」を策定したことを発表した。

【長期ビジョン】「世界中のお客様のニーズに応えるサプライチェーンの実現」

同社は、事業環境が激しく変化しステークホルダーからの期待が多様化・高度化する中、改めて10年後に向けた「長期ビジョン」を策定した。同社の強みは「食肉のトータルサプライチェーンを通して付加価値の高い商品・サービスを提供できる」ことであり、世界中のお客のニーズをしっかりと捉え、そのニーズに応えることのできるサプライチェーンを構築している状態を「長期ビジョン」として掲げる。この「長期ビジョン」に沿い、同社グループの経営理念「食の感動体験を創造することで世界中の人々と食をつなぎ続ける」の実現につなげていく。

【中期経営計画2030】テーマ「強みのさらなる進化とグローバル市場への挑戦」

【基本方針】「長期ビジョン」の実現に向けたマイルストーンとして「中期経営計画2030」を策定。計画達成のため①市場シェア拡大へのアプローチ②事業基盤の強靱化③持続成長を支えるコーポレート機能強化—の三つの基本方針を柱として取り組む。なお「中期経営計画2030」のテーマとなる“グローバル市場への挑戦”には、基盤の構築に一定の時間がかかることから、5カ年の計画としている。

【目標数値】最終年度 売上高5500億円、経常利益160億円(うち、海外比率15%)、EBITDA210億円、ROIC6・0%以上、ROE 10・0%以上

次の投資計画の実行により、償却負担は増加するものの「成長市場」である海外市場への進出や商品力・提案力の強化により、最終年度に過去最高益を計画。

【投資計画】5カ年計 700億円(うち、成長投資560億円)、国内市場向け240億円、海外市場向け260億円、DX・業務効率化60億円、維持更新140億円。

スターゼンが株主優待制度拡充、銘柄豚と加工品詰め合わせを追加

スターゼンは13日、今年5月9日に発表した「株主優待制度の拡充」について、来年度の優待品の詳細を発表。株主への日頃の感謝の意を込めるとともに、同社グループ事業への理解を一層深めてもらうため、従前の優待品について内容を拡充しつつ、新たに「銘柄豚」と「加工品詰め合わせ」をラインアップに加えた。

【200～599株＝マックカード1千円分(Web申し込み限定)】スターゼングループは、日本マクドナルド銀座1号店のオープンと同時にビーフパティの供給を開始。その後、半世紀以上にわたり、バーガーのビーフパティをマクドナルド向けに提供している。

【600～999株＝同社商品3千円相当分から選択】「さつまビーフ 肩すき焼き」(300g)、「こだわりポーク ロースライス」(500g)、「加工品詰合せ」(ハンバーグ、生ハム、肉だんごなど6点・上写真)

【1千～5999株＝同社商品6千円相当分から選

択】「さつまビーフ 肩ロースしゃぶしゃぶ」(400g)、「水感熟成豚 ロース厚切り」(150g×8)、「国産 ローストビーフスライス」(150g×2)、「国産 ローストポークスライス」(150g×2)の計4品。

【6千株以上＝同社商品1万2千円相当分から選択】「さつまビーフ 肩ロースすき焼き」(400g×2・下写真)、「黒毛和牛 ローストビーフ(ブロック)」(200g×2)



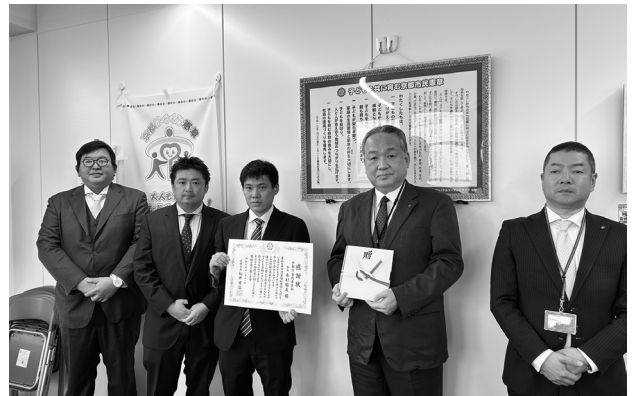
京都市食肉青年会が市内施設に牛肉贈呈、市長からは感謝状を授与

京都市食肉青年会(木村駿有会長)は11日、京都市中京区の京都市子ども若者はぐくみ局を訪れ、恒例となっている児童福祉施設への牛肉寄付受納式に出席した。今年で61回目。

青年会からは木村会長、安藤真宏副会長、宮田貴之会計長、京都市からは子ども若者はぐくみ局の福井弘局長、同子ども若者未来部子育て支援担当部の五味孝昭部長が出席。施設代表の児童養護施設和敬学園の松原宏融施設長は所用で欠席した。出席者紹介に続き、木村会長が福井局長に目録を贈呈した後、松井孝治京都市長からの感謝状を福井局長が木村会長に贈った。

続いて松原施設長(代読)から「この度はお肉の贈呈をいただき、誠に感謝申し上げます。子どもたちに贈呈のことを伝えると非常に喜び、夕食メニューの話題で盛り上がっていた。子どもたちの感謝の言葉やうれしそうな表情をみると、私たちも心が温まる。食卓を通して感謝の気持ちが育まれることに改めて感謝したい」とのメッセージが読み上げられ、しばらく歓談。

福井局長が「毎年、こうして寄付事業を継続され



ていることに感謝する。皆さんの業界を取り巻く環境は厳しいものがあると思うが、非常にありがたい。子どもたちも毎年皆さんの顔を見て、社会に自分たちが支えられていることを実感している」と改めて謝辞を述べた。

青年会メンバーは業界を取り巻く環境について説明を行った他、木村会長は「長年にわたって諸先輩が継続されてきた事業であり、今後も続けていきたい。当会は来年70周年を迎えるが、ぜひ市長にも参加していただければ」などと語った。今回は市内11施設に、すき焼き用牛肉約80kgが贈呈された。

モリタ屋(京都市)が「京都肉牛プレゼンテーション」を開催

(株)モリタ屋(京都市中京区、吉岡浩人社長)は12日、京都市南区の同社卸本部で「2025京都肉牛プレゼンテーション」を開催。プレゼンテーションでは、牛枝肉(京都肉27頭、鹿児島黒牛15頭、信州プレミアム牛・長野県産和牛12頭、近江牛5頭、交雑牛3頭)の他、京都肉を含む部分肉11頭の計73頭(展示品)を販売した。

即売会では厳正な格付を行い、最優秀賞2頭(京都肉、雌、枝肉重量452・2kg、税別単価3700円)(京都肉、去勢、614・6kg、3400円)、優秀賞2頭(鹿児島黒牛、去勢、600・0kg、3400円)(鹿児島黒牛、雌、519・8kg、3600円)、優良賞2頭(信州プレミアム牛、雌、433・7kg、3200円)(鹿児島黒牛、去勢、518・4kg、3200円)(格付は全てA5、BMS No.12)を選出した。



当日は天候にも恵まれ、開始前から数多くの購買者が来場。即売会では倉庫前で担当者から謝辞が述べられ、商品説明や購買方法、注意事項などについての説明が行われた後、購買者は一斉に庫内に飛び込んだ。ちぎり方式で実施された即売会では次々に商品が購入され、短時間のうちに完売した。

【輸入牛現物相場】 末端の販売はいまだ振るわず

豪州産は先週に続き、全体的な引き合いが継続。以前から動いているカタ、モモに加え、焼き材の引き合いもある。年末需要を意識した引き合いもあるだろうが、多くは先物価格の上昇、現地で引き合いが強まったことでフローズンの買い付けが難しくなっていることなどによる代替需要が考えられる。一方で、末端販売は相場高の影響もあって振るわない。年末

の最需要期までにどの程度動くかが注目される。米国产チルドは豪州産ほど値動きがないが、それでもショートプレートなどは少しずつ相場が上昇している。

フローズンでは、豪州産はひき材需要が強い。現状は相場に大きな変化はないが、現地で競合国の買い気が強まっていることから、市中在庫が少なくなっている。米国产は値頃感を打ち出せない現地価格になっていることから、買い付けを抑制する傾向にある。チルドとは対比的に、荷動きは一部アイテムに限定され、全体的な動きは弱い。

【輸入牛肉現物相場】 円/キロ

		グラス	ショートグレイン
豪州産	トップサイド	1,350 ~ 1,450	1,430 ~ 1,550
	シックフランク	1,350 ~ 1,450	1,430 ~ 1,500
	アウトサイド	1,300 ~ 1,380	1,380 ~ 1,430
	ポイント	1,300 ~ 1,380	1,450 ~ 1,500
	ナーベル	1,150 ~ 1,250	1,300 ~ 1,350
	ランプ	1,600 ~ 1,650	1,750 ~ 1,950
	クロッド	1,330 ~ 1,380	1,400 ~ 1,450
	チャックロール	1,450 ~ 1,540	1,700 ~ 1,750
	チャックテンダー	1,400 ~ 1,500	1,500 ~ 1,600
	キューブロール	3,200 ~ 3,500	4,000 ~ 4,500
C	ストリップロイン	2,400 ~ 2,550	2,650 ~ 2,800
	テンダーロイン	4,200 ~ 4,500	4,700 ~ 4,800
豪州産	チャック&ブレード	-	-
	ポイント	1,320 ~ 1,450	-
	ナーベル	1,100 ~ 1,150	-
	カウミート	1,100 ~ 1,220	-
F	トップサイド	1,350 ~ 1,400	-
	シックフランク	-	-

		チルド	フローズン
米国产	スクウェアカットチャック	-	-
	ショルダークロッド	1,700 ~ 1,800	1,550 ~ 1,650
	ショートプレート	1,200 ~ 1,250	1,050 ~ 1,100
	ボンレスショートリブ(チョイス)	5,850 ~ 6,000	-
	ボンインショートリブ	-	-
	チャックリブ(チョイス)	2,500 ~ 2,600	2,300 ~ 2,400
	ストリップロイン(チョイス)	4,300 ~ 4,800	-
	リブアイロール(リップオン)	5,200 ~ 5,500	-
	テンダーロイン	5,700 ~ 6,000	-
	ステーキレディ	-	-
産	チャックアイロール(チョイス)	2,350 ~ 2,650	2,150 ~ 2,350
	同(プライム)	2,400 ~ 2,700	-

【ブロイラー市中現物相場】

需要期だが輸入量少なく、ブラジル産、タイ産とも一段高

◇国産物 鍋物、煮物用途での需要期となり、生鮮モモ肉の動きは活発化しているが、生産が好調なことなどから、日経荷重の東京相場は740円前後でおおむねもちあいで推移となった。生鮮ムネの荷動きはやや季節なりに鈍化もみられるが、相場は540円台で高止まりしている。

◇輸入物 中食・外食とも最需要期となる真冬に向かい、荷動きは一層活発化している。ブラジル、タイとも自国での消費が堅調なこと、また

タイ国内の人手不足もあり、両国産とも輸入量は少ない。日本国内の在庫もやや逼迫^{ひっばく}気味となり、モモ正肉、カット物とも値を上げた。

単位:円/キロ

ブロイラー現物相場 単位:円/キロ

国産冷凍物	
モモ正肉(産地凍結)	600~650
ムネ正肉(〃)	410~490
手羽モト(〃)	300~350
手羽サキ(〃)	玉なし
砂キモ(〃)	玉なし
ササミ(〃)	380~500

輸入物	
米国产モモ正肉(240gUP)	460中心
米国产ジャンボレッグ(350gUP)	350中心
米国产BIL	550~570
ブラジル産モモ正肉	530~550
ブラジル産モモ角切り	520~540
ブラジル産皮なしモモ正肉	470中心
ブラジル産グリラー(1000gUP)	430~450
ブラジル産手羽サキ(50gUP)	600中心
タイ産モモ正肉	530中心
タイ産モモ角切り(25~30g)	540中心
米国产モモ串	玉なし

東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数

[東京食肉卸売市場] 11月13日
枝肉卸売価格(瑕疵除く)(頭、1kg当たり円、税込み)

◇牛生体		5	4	3	2	1		
和牛	雌 A	高値	3,473	2,594	2,405	-	-	
		安値	2,228	2,358	2,176	-	-	
		平均	2,760	2,467	2,318	-	-	
	89頭	頭数	65	20	4	-	-	
	雌 B	高値	-	-	-	-	-	
		安値	-	-	-	-	-	
		平均	-	-	-	-	-	
	-頭	頭数	-	-	-	-	-	
	去 A	高値	4,320	2,589	2,399	-	-	
		安値	2,357	2,322	2,247	-	-	
		平均	2,724	2,437	2,317	-	-	
	188頭	頭数	144	38	6	-	-	
去 B	高値	-	-	-	-	-		
	安値	-	-	-	-	-		
	平均	-	-	-	-	-		
-頭	頭数	-	-	-	-	-		
乳牛	雌 B -頭	平均	-	-	-	-		
	雌 C -頭	平均	-	-	-	-		
	去 B -頭	平均	-	-	-	-		
	去 C -頭	平均	-	-	-	-		
交雑牛	雌 B	21頭	平均	-	1,681	1,572	1,477	-
		頭数	-	3	14	4	-	
	雌 C	1頭	平均	-	-	-	1,414	-
		頭数	-	-	-	-	1	-
去 B	31頭	平均	-	1,711	1,610	1,513	-	
	頭数	-	3	17	11	-	-	
去 C	-頭	平均	-	-	-	-	-	
	頭数	-	-	-	-	-	-	

	牛	豚	搬入牛	搬入豚		その他
と畜 売買	430 429	1,008 1,005	- 280.0	(競り)	(相対)	
				-	8	82

◇牛搬入		5	4	3	2	1
和 雌	A	2,502	2,020	1,762	1,569	-
	B	-	-	1,458	1,510	1,273
和 去	A	2,566	2,403	2,478	-	-
	B	-	2,107	-	-	-
乳 雌	B	-	-	-	-	1,007
	C	-	-	-	1,070	993
乳 去	B	-	-	-	-	-
	C	-	-	-	-	-
交 雌	B	1,977	1,686	1,564	1,506	-
	C	-	-	-	1,297	-
交 去	B	1,900	1,739	1,625	1,501	-
	C	-	1,610	1,491	1,460	-

◇豚		[極上]	[上]	[中]	[並]	[等外]
生体	高値	720	738	755	617	529
	安値	605	562	518	443	248
	平均	636	590	573	534	484
	頭数	(4)	(434)	(380)	(88)	(99)
搬入 競り	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
搬入 相対	高値	-	-	-	-	538
安値	-	-	-	-	-	538
平均	-	-	-	-	-	538
頭数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(8)

[大阪食肉卸売市場] 11月13日
枝肉卸売価格(生体)(1kg当たり円、税込み) []は豚規格

	5[極上]	4[上]	3[中]	2[並]	1[等外]
和 雌 A	2,588	2,307	2,155	1,906	-
(頭数)	(6)	(8)	(3)	(1)	(-)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	(-)	(-)	(1)	(5)	(-)
和 去 A	2,641	2,283	2,162	1,889	-
(頭数)	(32)	(7)	(2)	(3)	(-)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	(1)	(-)	(-)	(-)	(-)
乳 去 B	-	-	-	-	-
交雑雌 B	-	1,797	1,713	1,427	-
C	-	-	1,642	-	-
交雑去 B	-	1,765	1,696	1,576	-
C	-	1,676	1,589	-	-
豚	-	568	546	516	470

[全国と畜概算頭数]
農水省統計部発表 (頭)

	11月13日	11月12日	(11月累計)
豚	69,700	69,700	561,200
成牛計	4,440	5,160	38,610
和牛雌	1,190	1,350	10,220
和牛去勢	1,280	1,600	11,110
乳牛雌	790	640	5,600
乳牛去勢	360	410	3,290
交雑雌	450	530	3,910
交雑去	360	610	4,360

[去勢牛B3・2規格 枝肉取引価格] 11月13日

	1,572円	(前日 1,591円)
東京		
大阪	1,610円	(前日 1,662円)

[豚・全農建値] 11月13日

上	中	取引頭数	市況
605円	586円	1,300頭	急落

と畜 売買	牛 93頭 牛 110頭	豚 182頭 豚 129頭	牛概況 豚概況	もちあい 反発
----------	-----------------	------------------	------------	------------

各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場

[主要市場豚枝肉卸売価格] 11月13日 (1kg当たり円、税込み)

	上加重 (前日)	中加重 (前日)	と畜	上場	市況
北海道 [セ]	594 (583)	- (-)	6,245	-	上伸
仙台 [中]	600 (607)	569 (554)	389	72	反落
栃木 [地]	577 (-)	546 (-)	1,643	54	急反発
茨城 [地]	621 (609)	580 (580)	1,297	809	続伸
群馬 [地]	605 (604)	510 (530)	2,156	439	小安い
さいたま [中]	605 (627)	593 (622)	280	281	続落
東京 [中]	590 (627)	573 (606)	1,008	1,005	急反落
横浜 [中]	620 (618)	593 (587)	687	687	もちあい
山梨 [地]	633 (601)	575 (578)	245	206	反発
浜松 [地]	- (-)	- (-)	-	-	競り休止
名古屋 [中]	622 (617)	611 (599)	998	271	もちあい
京都 [中]	624 (-)	597 (-)	40	111	もちあい
大阪 [中]	568 (545)	546 (520)	182	89	反発
神戸 [中]	613 (-)	598 (-)	54	135	-
岡山 [地]	616 (611)	616 (603)	267	374	堅調
広島 [中]	- (591)	- (565)	405	24	-
福岡 [中]	591 (595)	573 (568)	525	256	小反落

注：北海道はホクレン大卸売価格で、前日の全道と畜頭数。

[日本食肉流通センター] 11月6日～11月12日
豚カット肉 [I] (1kg当たり円、税込み、重量kg)

◇首都圏 総重量 1,813,861 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,062	1,199	1,266	1,185	85,084
うで	740	774	810	775	156,385
ロース	1,071	1,145	1,166	1,134	156,351
ばら	1,210	1,281	1,350	1,282	182,391
もも	738	769	808	774	194,615
ヒレ	1,066	1,103	1,399	1,153	10,356
セット	940	1,027	1,063	1,014	1,028,679

◇近畿圏 総重量 787,551 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,177	1,304	1,353	1,278	56,170
うで	670	738	810	757	127,556
ロース	1,058	1,172	1,261	1,173	109,539
ばら	1,209	1,320	1,382	1,313	144,363
もも	705	737	810	745	178,558
ヒレ	1,183	1,295	1,351	1,269	11,256
セット	895	978	1,083	993	160,109

[食鳥正肉日経相場] 11月12日
荷受売値平均値 (kg当たり円、税抜き)

◇東京 (8社) ※休載

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	-	-	-	-
ムネ	-	-	-	-

◇大阪 (2社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	665	724	1,030	5
ムネ	467	511	602	2

[農水省統計情報部食鳥市況] 11月11日
kg当たり円、税抜き

	モモ肉	ムネ肉	手羽モ	手羽サ	ササミ
高値	960	776	550	600	650
安値	650	460	290	360	350
平均	742	568	-	-	-

※日本食肉流通センター：①数値はすべて記載日中間（1週間分）に収集した累積データをもとに算定しており、直近1週間の状況を示している。②重量ベースでみた価格の分布。代表値は「重量中央値」であり、参考値として「第1四分位値」「第3四分位値」「刈込み平均値」を算定。③収集した取引価格データ（単価・重量）を単価の低いものから順に並べ替えた上で取引重量を累積し、総取引重量のちょうど50%に位置する単価を「重量中央値」。最低価格から順に累積したデータを4等分し、最初の境界に位置する単価を「第1四分位値」3番目の境界に位置する単価を「第3四分位値」という。「刈込み平均値」は、第1四分位と第3四分位の間の重量ベースの平均値（加重平均値）。

食肉業界紙のパイオニア

食肉通信の 専門紙・誌と本

食肉業界のあらゆる情報を迅速・正確に伝えるべく、日刊、週刊、月刊の3紙を定期発行。食肉関連の情報を網羅した週刊「食肉通信」、日々のニュース速報に特化した日刊「食肉速報」、市場分析などテーマ性の高い情報を詳細に掘り下げる月刊「ミート・ジャーナル」を基幹媒体として、食肉に関する専門書籍を多数発行しております。

■業界動向がデータでわかる 数字でみる食肉産業

生産から流通、販売まで関連分野のデータを集積。B5判。年1回発行。

B5判 472頁 4,191円(送料別)

■畜産・食肉業界の動向大全 日本食肉年鑑

現状分析と将来の展望、戦略構築に必携の一冊。関係名簿、畜産・食肉需給の動向、食肉流通の動向、食肉加工品関係の売れ筋動向なども収録。年1回発行。

B5判 500頁 14,850円(送料別)

◆食肉販売&経営関連

銘柄牛肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄牛肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴など最新データを満載。

B5判 258頁 定価2,500円(送料別)

銘柄豚肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄豚肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴、輸出の状況など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

◆イベント

■国内で唯一、 最大級の食肉総合見本市



食肉産業展

食のグローバル化が目覚ましい発展を遂げる中で、和牛に象徴される日本独自の食文化を守り今後の成長を促すため、多彩な素材食品、加工技術、販売手法、管理システムを一堂に集めて提案いたします。

(HP) <https://www.shokuniku-sangyoten.jp/>

お申し込みは電話かFAXで
お近くの食肉通信社まで

株式会社 食肉通信社

■大阪 〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48

TEL 06(6538)5505 FAX 06(6538)5510

■東京 〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10

TEL 03(6206)0929 FAX 03(6206)0928

■九州 〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12

TEL 092(271)7816 FAX 092(291)2995

※東京事務所は2025年2月10日より上記の新住所に移転しました。電話・FAX番号も変更となりましたので、宜しくお願致します。

週刊 食肉通信



食肉全般の行政、業界ニュースをはじめ、新製品や食肉店経営のページ、量販店・外食、食肉組合、食肉市場などのニュースのほか、週間・月間市況や全国の食肉市場の牛・豚肉相場、食鳥相場など、国内外の生産から商社、卸、小売まで広範な情報を掲載しています。わが国唯一の食肉専門紙。

発行は毎週火曜日、ブランク判8~12ページ、価格は年間25,000円(税・送料込)

日刊 食肉速報



食肉関連に関する行政、業界の動向をはじめ、国産(牛枝肉・部分肉、豚枝肉・部分肉、プロイラー)と輸入(米国産やカナダ産の牛肉・豚肉、豪州産牛肉など)の相場市況を毎日掲載するとともに、企業情報・企業倒産など日々の業界ニュースをお届けします。

発行は月曜日から金曜日、A4判14ページ、価格は年間82,080円(税・送料込) ※軽減税率対象

月刊 ミート・ジャーナル



食肉の流通チャネルが多様化する中で、その時々のもっとも話題性の高いテーマを多角的視野で捉え、現場をレポート・分析。あわせて食肉・食肉製品など総業の製造・流通・販売の現場ですぐに役立つ技術情報などを掲載する月刊専門誌。

発行は毎月月上旬、B5判120~150頁、価格は年間23,100円(税・送料込)

◆教材&レポート等

■あなたの常識を強固にする 今さら聞けない肉の常識

平野正男
鏡見 著

肉はなぜ赤いのか、しゃぶしゃぶがおいしい理由は?など66の常識をわかりやすく解説。

A5判 152頁 定価1,500円(送料別)

■~食肉のプロフェッショナルを育てる~シリーズ 牛枝肉・牛部分肉の見方 牛肉の見方を簡単図解

「牛枝肉、牛部分肉のポイント」について分かりやすくまとめた待望の入門書。

B5判 90頁 定価3,000円(送料別)

■職人の技を次世代へ繋ぐ、保存版 牛枝肉・部分肉の 分割と商品化

カラー写真も豊富で、各種規格、枝肉の分割から商品化までの全てが分かる一冊。

B5判 216頁 定価5,500円(送料別)

■知識を豊かにする 食肉用語事典

平成22年に新改訂した、定評のエンサイクロペディア。新訂正版は3,000語採録。

日本食肉研究会編 A5判 506頁 定価7,000円(送料別)

◆ステーションリー

食肉手帳 DIARY

毎年発行し好評をいただいている業界人必携の手帳がグレードアップ。機能性、食肉価格などの資料も充実し、日頃の業務をサポートします。名入れも可。

横9.4cm×縦14.5cm 定価990円 ※購入される冊数によって価格は変動します